

(3) 地域を支える人材の育成

地域を支え、地域に貢献する人材の育成に努める。

- ア 地域活動の実践者の育成
- イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成

生涯学習課

学びと活動による地域コミュニティ活性化事業

(地域で考え行動する公民館機能活性化事業)【新規】

[事業目的及び概要]

地域コミュニティの活性化へ向けた人材の育成を目的として、公民館の持つ人材の発掘〈集う〉・育成〈学ぶ〉・ネットワーク化〈つなぐ〉という機能を活性化し、公民館職員の実践的なスキルアップを図るとともに、地域住民の意識の喚起・涵養と実践力の育成に向けた取組を行い、また、公民館を地域の人材育成の拠点として継続的に機能させるための取組を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 意識醸成

ア キックオフフォーラムの開催

- ・開催日 6/22(土)
- ・会場 県総合社会教育センター
- ・参加者 132名
- ・内容 <基調講演>
 テーマ「公民館と地域住民の協働による地域コミュニティの活性化」
 講師 千葉大学 理事 長澤 成次
 <パネルディスカッション>
 テーマ「地域コミュニティ活性化に向けた公民館の役割」
 パネリスト
 島根県教育庁社会教育課 社会教育主事 山本 芳正
 山形県南陽市教育委員会社会教育課 主事 加藤 由和
 山形県南陽市吉野公民館 館長代理 伊藤 正志
 黒石市教育委員会社会教育課 課長 駒井 昭雄
 こどもはっち 代表 平間 恵美

(2) 実践に向けた意識及び資質の向上

ア 公民館の力活用プランナー講座（主に公民館職員対象）

- ・開催日及びのべ参加者数

開催日	5/31	7/12	10/22	11/6	計
参加者数	81名	52名	53名	46名	232名

- ・会場 県総合社会教育センター
- ・内容 地域課題の把握及びそれに対応する事業の企画・立案について学ぶ
- ・講師等
 - 第1回 講義①「公民館の持つ機能の再発見」
 講義②「公民館での講座の運営と主催事業のポイント」
 講師：秋田大学 准教授 原 義彦
 事例発表「岩手県の公民館を基盤とした実践活動」
 発表者：岩手県立生涯学習推進センター 生涯学習部長 佐々木 勉
 紫波町古館公民館 公民館指導員 水本 千恵子
 - 第2回 講義「地域を活性化させるための地域課題の見つけ方」
 講義・演習「地域を活性化させるための具体的取組を考える」
 講師：RE Learning 代表 秦野 玲子
 - 第3回 講義・演習「事業の構想を企画書に整える」
 講師：県総合社会教育センター職員
 - 第4回 講義「プレゼンテーション手法の習得」
 講義・演習「企画が通るプレゼンテーションのマル秘テクニック」
 講師：RAB開発株式会社 営業本部長 山田 禎人

イ 公民館の力活用住民講座（地域住民対象）

- ・開催日及び参加者数（各地区2回開催）

地区	東青		西北		中南		
開催日	8/1	9/18	8/7	9/6	8/8	9/3	
参加者数	33名	17名	9名	11名	38名	27名	
地区	上北		下北		三八		計
開催日	8/21	9/19	8/29	9/24	8/22	9/26	
参加者数	34名	17名	15名	8名	32名	10名	

- ・内容 地域課題の把握及び公民館機能の活用について学ぶ
- ・講師等

第1回

地区	講師	会場
東青	あおもりNPOサポートセンター 理事長 田中 弘子	県総合社会教育センター
西北	青森公立大学 教授 内海 隆	金木公民館
中南	青森公立大学 教授 内海 隆	県武道館
上北	青森公立大学 教授 内海 隆	上北教育委事務所
下北	弘前学院大学 講師 生島 美和	むつ合同庁舎
三八	青森公立大学 教授 内海 隆	八戸市福祉公民館

第2回

講師：県総合社会教育センター職員

会場：第1回に同じ

(3) 実践を通じたスキルアップ（青森県公民館連絡協議会に事業委託）

ア 事業プランの公募

- ・公募期間 6/22(土)～10/31(木)
- ・公募対象 地域住民及び公民館職員からなる事業プラン実行委員会（以下、実行委員会）
- ・事業プラン応募数

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八	計
応募数	2	4	6	2	1	1	16

イ 公開コンペ

- ・開催日 11/30(土)
- ・会場 県総合社会教育センター
- ・参加者 119名
- ・内容 各事業プラン実行委員会による、事業プランのプレゼンテーション
選出委員会によるプレゼンテーション審査及び選出協議
- ・事業プラン選出数

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八	計
選出数	2	3	3	2	1	1	12

(4) 成果の普及

県総合社会教育センターにより、キックオフフォーラム、プランナー講座、住民講座をビデオ収録・編集し、県総合社会教育センターホームページにおいて地域づくり教材として配信。

[成果と課題]

キックオフフォーラムや各講座参加者のアンケートでは、「町の課題を取り上げ、関係団体とリンクした事業に取り組みたい」「公民館に戻ったら積極的に事業を考えたい」「公民館の在るべき姿を理解できた」等の回答があり、各取組を通じて公民館職員及び地域住民の公民館機能に対する認識は深まり、公民館機能を活用した地域活動の機運が高まっていると考えられる。

また、各アンケートにおいて「それぞれの市町村の課題を話し合えてよかった」「他地区の事業を聞いて参考になった」等の回答があり、本事業が地域を越えて、公民館機能や社会教育に関する全県的な情報共有の機会として機能していることが伺える。

今後は、各取組を通じて醸成された機運や、事業参加者が得た知見が各地域で有意義に生かされ、地域づくり活動の人財が育成されるためには、事業プランの実施による、実践を通じたスキルアップを図ることが必要である。

さらに、各地域において人財育成が継続的に行われるために、本事業の成果をまとめた冊子や、各取組をまとめた視聴覚教材を作成・配布し、公民館と地域住民の協働による地域づくり活動を通じた人財育成の普及を図ることが重要である。

学びと活動による地域コミュニティ活性化事業

(学校発、地域とのつながり形成事業)【新規】

[事業目的及び概要]

地域のコミュニティ機能や人財育成機能を充実させ、地域での連携を深め地域ぐるみで子どもを育む活動を推進することを目的として、学校を核として、児童生徒やPTAが主体となり地域と連携した取組を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 子ども発、地域お助けレンジャー事業

ア 進め、地域お助けレンジャー

小中学校のモデル校 12 校において、地域が抱える課題の解決に向けて、児童生徒が地域のために地域住民と共に主体的に活動を行った。

【モデル校】

小学校：平内町立東小学校	鶴田町立梅沢小学校	平川市立平賀東小学校
横浜町立有畑小学校	風間浦村立下風呂小学校	五戸町立切谷内小学校
中学校：平内町立東平内中学校	深浦町立岩崎中学校	弘前市立裾野中学校
十和田市立大深内中学校	むつ市立近川中学校	南部町立杉沢中学校

イ 地域お助けレンジャー活動の紹介

12 校の取組は「子ども発、地域お助けレンジャー新聞」にまとめ 1,000 部発行した。

(2) PTA発、コミュニティの力アップ事業

ア PTAプラスCで地域いきいきモデル事業

地域と協働して学習活動や交流活動を行うこと通じて、家庭と地域、学校と地域のつながりを強化するモデル的な取組を 12 PTA に委託して実施した。

【実施PTA】

青森市立野内小学校 PTA	青森市立三内中学校 PTA
五所川原市立いずみ小学校 PTA	五所川原市立市浦中学校 PTA
藤崎町立常盤小学校 PTA	黒石市立東英中学校 PTA
十和田市立三本木小学校 PTA	三沢市立第二中学校 PTA
むつ市立脇野沢小学校 P T C A	むつ市立近川中学校 PTA
新郷村立西越小学校・野沢中学校 PTA	八戸市立北陵中学校 PTA

イ PTAプラスCの可能性を考えるフォーラム

PTA及び地域住民を対象に、PTCAをテーマにPTAと地域が連携を図ることの意義について考えるフォーラムを東青・中南・上北の3地区で開催した。

東青	<p>【開催日】 7/27(土) 【会場】 県総合社会教育センター 【参加人数】 35名</p> <p>【内容】 講演「学校・家庭・地域の絆が『明るく・やさしく・元気な子ども』を育てる」 ～キーワードは「子どもの安全・安心・学力」～ 青森社会教育研究会 副代表 棚瀬 敏雄</p> <p>事例紹介「子ども発、地域お助けレンジャー事業」「PTA発、コミュニティの力アップ事業」</p>
中南	<p>【開催日】 11/30(土) 【会場】 田舎館村文化会館 【参加人数】 79名</p> <p>【内容】 講演「地域ぐるみで子どもを育むには」 弘前大学 客員教授 齋藤 厚 事例発表・活動紹介 藤崎町立常盤小学校PTA 会長 永井 純一 黒石市立東英中学校PTA 教頭 酒井 清敏 平川市立平賀東小学校 児童 弘前市立裾野中学校 生徒</p> <p>パネルディスカッション コーディネーター 弘前大学 客員教授 齋藤 厚 パネリスト 藤崎町立常盤小学校PTA 会長 永井 純一</p>

25年度事業の実績

	弘前市立裾野中学校 校長 花田 裕 黒石市立東英中学校 P T A 教頭 酒井 清敏 平川市立平賀東小学校 教諭 石田 雅昭
上北	【開催日】 11/16(土) 【会場】 東北町民文化センター 【参加人数】 75名 【内容】 講演「地域ぐるみで子どもを育むには」 弘前大学 客員教授 齋藤 厚 事例発表・活動紹介 十和田市立三本木小学校 P T A 会長 畑中 宏之 三沢市立第二中学校 P T A 会長 長根 隆弘 十和田市立大深内中学校 教頭 見友 健二 パネルディスカッション パネリスト (上記講師と発表者による)

[成果と課題]

子ども発、地域お助けレンジャー事業では、児童生徒が地域に目を向け活動することで、地域を愛する気持ちやボランティア精神を培う事ができた。また、学校と地域との交流や児童・生徒が地域の方々に認められる場にもなった。

P T A プラス C で地域いきいきモデル事業では、これまで埋もれていた地域の資源（伝統文化、スポーツ施設）の見直しや地域のまちづくりへの取組もあり、学校と地域、P T A と地域とのつながりづくりとともに地域コミュニティの活性化にもつながっている。

P T A プラス C の可能性を考えるフォーラムでは、P T A を核にした地域の活性化や学校と地域が連携した活動を広げて行くことができることを知ってもらう機会となった。

今後は、新聞及びモデル事例集発行とフォーラムの開催を通して、多くの学校や P T A で地域とのつながりを形成する取組について啓発・普及していく必要がある。

総合社会教育センター

地域のつながり創造人育成事業

[事業目的及び概要]

地域の再生・創出を支える人材を育成することを目的として、地域の若者を対象とした「想いをつなぐ語り場キャラバン」や地域住民も含めた住民会議を開催し、若者の想いを地域課題に高め、それを解決する取組により、地域の若者を育成するノウハウを開発し、地域力の再生・創出を支える人財の育成を図る事業である。

[事業内容及び結果]

(1) つながり創造実践事業

ア つながりを創る実践講座

実践事業を行うモデル地区において、県総合社会教育センターが出前講座を行うことにより、地域のつながりを創造するための取組が円滑に実施できるようにノウハウを提供し、関係者のスキルアップを行った。(県内 6 地区で 2 回開催 参加者のべ 76 名)

地区	1 回		2 回		会場	参加者計
東青	5/20(月)	4名	6/4(火)	5名	平内町商工会(平内町)	9名
西北	5/16(木)	5名	6/14(金)	4名	板柳町あふる(板柳町)	9名
中南	5/14(火)	5名	6/5(水)	5名	田舎館村公民館(田舎館村)	10名
上北	5/10(金)	9名	5/23(木)	8名	東北町民文化センター(東北町)	17名
下北	5/8(水)	10名	5/21(火)	7名	津軽海峡文化館アルサス(佐井村)	17名
三八	5/17(金)	7名	6/12(水)	7名	三戸町中央公民館(三戸町)	14名

イ つながりを創る実践事業

モデル地区を設定し、日常的な地域のつながりを創造するための世代間の交流モデルとなる取組や様々な仕掛けを行う実践事業を行った。(県内 6 地区で 1 回開催 参加者 632 名)

地区	開催地	事業名		参加者計
東青	平内町	貴重で楽しい思い出を in ひらない子どもふれ愛まつり 2013	9/29(日)	120名
西北	鶴田町	星に願いを～キャンドルナイト in 津軽富士見湖～	7/17(水)～9/7(土)	131名
中南	黒石市	TNF～中南フェスティバル～ねぶたと津軽の食と津軽弁の日	9/23(月)	191名
上北	東北町	東北 Techno music festival 清水目音夜祭	8/17(土)	48名
下北	佐井村	下北っていいなあ in 北前船彩紀行	7/20(土)～7/21(日)	20名
三八	三戸町	11Cats 争奪 3on3 バスケットコンテスト in 三戸	9/29(日)	122名

(2) 地域のつながり創造県民フォーラム

日常的な地域のつながりを創造するための全国での実践事例や県内各地の実践を基にした実践報告を通して、幅広い観点から意見交換することにより、2年間の取組の成果及び課題と展望を共有しながら取組の意義を確認し合い、地域力の再生・創出を支える人財を幅広く育成することができた。

○つながり創造フェスタ (11/16)

【会場】 県総合社会教育センター 【参加者】 105名

午前	事例紹介	「田舎に生きる～地方の豊かさと可能性～」 茨城県常陸太田市 地域おこし協力隊「Relier (ルリエ)」 野寄 真衣 「故郷で感じる人とのつながり」 岩手県いわて NPO-NET サポート 事務局 高田 真理子 「むつコンを通しての地域おこし」 青森県むつ市 むつコン実行委員会 広報担当 井本 貴之
午後	事業報告会	県内6地区で開催した「つながりを創る実践事業」の報告会

【成果と課題】

成果

2ヶ年にわたり本事業に参加した若者を支援し、課題の掘り起こしから、事業の発案、そして企画の実践という一連の取組を通して、自らの想いを具現化する手法と仲間や支援者との人的ネットワークを獲得させることができた。

若者にとって、この実体験は大きな財産となり、地域の活性化に貢献できる人材としての自信につながったことから、若者が今後、新たな取組を実行できるよう地域のつながり創造人として育成することができた。

上北と西北地区の実行委員会が、公民館活性化事業のコンペに参加し、2実行委員会とも採用となり、来年度も事業を継続することとなった。また、会場審査での1位が上北、2位が西北という結果から、若者の発想や地域に対する想いが、会場の参加者に十分に伝わったことがわかる。

課題

継続的で体系的な人材育成の新たな機会の提供が必要不可欠であり、地域ぐるみで人材育成のための仕組みを整えることが課題である。必要な要件としては、以下の5点である。

- ①参加者同士の人的ネットワーク形成
- ②安定した資金調達のノウハウ
- ③地域づくりを担う人材が習得すべきスキルの明確化
- ④若手青年層育成の取り組みの市町村への普及
- ⑤地域づくりを支える人材育成事業の促進

パワフルAOMORI！創造塾

【事業目的及び概要】

新たな活動者の発掘と育成、仲間づくりの促進やネットワーク(つながり)の形成・強化、活動の活性化を目的として、対象地域を絞り2年間をかけての理論学習や活動実践等の研修を通して、地域づくりに取り組む活動者を育成する事業である。

【事業内容及び結果】

期日	対象	内 容	参加者
6/29 (土)	2年生	グループ会議1「今年度の活動計画について」	7名
7/6 (土)	1年生 (公開)	創造塾 基調講演 「創発からのまち育て」 講師 弘前大学教育学部教授、教育学部副学部長 北原 啓司 パネルトーク 「わたしがことをおこしたとき」 コーディネーター 北原 啓司 パネリスト tecoLLC 代表 立木 祥一郎 巨大アップルパイギネスに挑戦する会 事務局長 南 直之進 町おこしゲリラ集団「あおぞら組」代表 島 康子	85名
7/21 (日)	1年生	講義・演習「フィールドワークのノウハウ ～まちの見方、地域財産の見つけ方～」 講師 (社)弘前観光コンベンション協会 事務局長 坂本 崇	24名

8/4 (日)	2年生	グループ会議2「今年度の実践活動について」	7名
8/17 (土)	1年生 2年生	講義 「自分の未使用ポテンシャルを發揮するには」 講師 弘前大学教育学部教授、教育学部副学部長 北原 啓司 弘前下土手町商店街振興組合 事務局長 宮川 克己 演習 「フリーペーパーづくり」 講師 宮川 克己	26名
8/31 (土)	2年生	演習 「地域実践に係る計画について」 講師 青森中央学院大学 講師 佐藤 淳	7名
9/14 (土)	1年生	演習 「思わず手に取るチラシの作り方」 講師 日本人財発掘育成協会 理事 水戸 光宣	13名
9/28 (土)	1年生	講義・演習 「地域を元気にする総合戦略」 講師 プロジェクトおおわに事業協同組合 副理事長 相馬 康稔	19名
10/19 (土)	1年生 2年生	講義 「先輩の活動から学ぶ」 講師 巨大アップルパイギネスに挑戦する会事務局長 南 直之進 発表 「育成リーダー事例発表」 発表者 創造塾2年生 岩本 ヤヨエ・佐々木 弘高	17名
11/2 (土)	1年生	グループ会議1「モデル地域実践活動について」	12名
12/7 (土)	1年生	グループ会議2「モデル地域実践活動について」	12名
12/14 (土)	1年生	グループ会議3「モデル地域実践活動リハーサル」	20名
1/19 (日)	1年生 (実践)	モデル地域活動実践 「津軽クエスト～1月19日だけの大冒険～ in ヒロロスクエア」	167名
3/8 (土)	2年生 (公開)	講演「AOMORIの元気を創る！」 講師 株式会社オアゾ 代表取締役社長 松田 龍太郎	59名

【成果と課題】

地域を問わず、塾生のつながりを構築し、活動する中で、塾生間での学び合いが進んだ。また、塾生が独自に活動団体を作り、自主的に講座を運営している。塾生と講師とのつながりが講座終了後も続き、地域活動について指導・助言を受けている。

入塾した塾生には、2年間かけてじっくり学習できるという声もある一方、拘束期間が長いと感じる人もいる。また、塾生の在住市町村に偏りがあり、県全域に渡った潜在的ニーズに応えていない。

学校と地域の協働実践セミナー

【事業目的及び概要】

未来を担う子どもたちを健全に育成するため、地域ぐるみで子どもたちを育む意識や主体的な取組を啓発するとともに、学校と地域の協働を推進する人材及び子どもたちの育成に関わる活動実践者を養成することを目的として、研修を行う事業である。

【事業内容及び結果】

○対象：子どもと関わる地域活動実践者、地域住民、教職員など

○受講者数：延べ278名

(1) 研修会

開催地区	内 容
東 青	<p>【開催日】10/9(水) 【参加人数】27名 【会場】県総合社会教育センター</p> <p>【講義】「学校と地域が共に支え合うこれからの教育活動」</p> <p>【演習】「地域の子どものために自分ができること」 小平市立学校学校支援コーディネーター連絡協議会 会長 布 昭子</p> <p>【事例発表】 五所川原市立栄小学校 学校支援コーディネーター 葛西 彩子 平内町立東小学校 教諭 三浦 一範</p>

西 北	【開催日】 6/25(火) 【参加人数】 31名 【会場】 五所川原市民学習情報センター 【講義】 「子どもの育成を担う学校、家庭、地域の役割」 【演習】 「地域の子どもたちのために自分ができること」 弘前大学教育学部 客員教授 齋藤 厚 【事例発表】 七戸町学校支援コーディネーター 山本 泰二 中泊町立中里小学校 校長 赤石 聡
中 南	【開催日】 10/31(木) 【参加人数】 21名 【会場】 弘前市総合学習センター 【講義】 「子どもの成長を地域全体で支えるということ」 【演習】 「地域の子どもたちのために自分ができること」 弘前大学 生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎 【事例発表】 五所川原市立栄小学校 学校支援コーディネーター 葛西 彩子 平川市立小和森小学校 教頭 栗林 直人
上 北	【開催日】 6/19(水) 【参加人数】 34名 【会場】 三沢市公会堂 【講義】 「学校と地域が共に支え合うこれからの教育活動」 【演習】 「地域の子どもたちのために自分ができること」 青森県立保健大学 准教授 浅田 豊 【事例発表】 八戸市立小中野中学校 学校支援コーディネーター 中村 奈津世 野辺地町立野辺地小学校 教諭 小山内 力
下 北	【開催日】 10/23(水) 【参加人数】 16名 【会場】 下北文化会館 【講義】 「学校と地域が共に支え合うこれからの教育活動」 【演習】 「地域の子どもたちのために自分ができること」 青森県立保健大学 准教授 浅田 豊 【事例発表】 八戸市立小中野中学校 学校支援コーディネーター 中村 奈津世 佐井村立佐井小学校 教頭 澁田 健太
三 八	【開催日】 7/9(火) 【参加人数】 31名 【会場】 八戸市福祉公民館 【講義】 「子どもの成長を地域全体で支えるということ」 【演習】 「地域の子どもたちのために自分ができること」 弘前大学 生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎 【事例発表】 七戸町学校支援コーディネーター 山本 泰二 八戸市立旭ヶ丘小学校 教諭 日山 寿康

(2) 公開講演・パネルディスカッション

【開催日】 8/20(火) 【参加人数】 118名 【会場】 県総合社会教育センター 【内容】 「学校・家庭・地域の連携による教育の推進」 ～子どもの育成に多くの人を巻き込む仕組みづくり～ 【講師・パネリスト】 横浜市立東山田中学校コミュニティハウス 館長 竹原 和泉 【パネリスト】 前五所川原市中央公民館長 春藤 篤子 八戸市立小中野小学校 学校支援コーディネーター 平間 恵美 八戸市立小中野中学校 学校支援コーディネーター 中村 智子 【ファシリテーター】 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎
--

[成果と課題]

受講者の約6割が地域の学校や子どもたちと実際に関わりをもつ活動実践者であった。学校支援活動に関する理論や事例紹介・演習を組み合わせた内容が日々の実践に役立つという意見や、これからの支援活動に積極的に携わっていきたいという意見が出された。

学校支援活動が多岐にわたることから、地域活動実践者・企業・学校等のコーディネート能力や子どもに接するコミュニケーション能力の向上など、さらに資質向上を図るための講座を開催する必要がある。